
岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 坂上 修

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320
(山田校舎) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

- 1 会議の名称** 平成24年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第1回)
- 2 会議の構成**
- | | | |
|----|-------|-------------------------------|
| 委員 | 岩佐 澄男 | 元飛騨農業協同組合組合長 |
| | 川尻富士子 | 岐阜県指導農業士 |
| | 白野登美子 | 高山商店街振興組合女性部 |
| | 西永 由典 | 高山市社会福祉協議会会長
飛騨高山高等学校同窓会理事 |
| | 米澤 久二 | 公認会計士 |
- (委員名は五十音順)
- | | | |
|-----|-------|----------------------|
| 学校側 | 坂上 修 | 校長 |
| | 丹羽 俊文 | 副校長 (全日制山田校舎) |
| | 大澤 正孝 | 副校長 (定時制・通信制) |
| | 森 勝彦 | 事務主幹 |
| | 板屋 光彦 | 教頭 (全日制岡本校舎) |
| | 中垣内隆夫 | 教頭 (全日制岡本校舎) |
| | 渡辺 昌文 | 教頭 (全日制山田校舎) |
| | 岡本 昌昭 | 教頭 (定時制) |
| | 細江 雅紀 | 教頭 (通信制) |
| | 村田 和宏 | 教諭 (全日制岡本校舎・教務主任、記録) |
- 3 会議の目的** 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催** 平成24年7月4日(水) 10:00~12:00 飛騨高山高校 岡本校舎会議室
委員5名と学校側10名が出席
- 5 会議の概要** (進行 中垣内教頭)
開会の挨拶 (丹羽副校長)
出席者自己紹介
学校説明 (坂上校長)
全日制 岡本校舎 (板屋教頭)、山田校舎 (渡辺教頭)
定時制 (岡本教頭) 通信制 (細江教頭)
授業参観 (全日制・岡本校舎の第3限の全授業)
授業参観の感想及び学校への意見・要望等
閉会挨拶 (大澤副校長)

(1) 学校説明

<全体説明>

この会議は、外部の方々の意見を取り入れ学校運営に役立てる大切な会議である。岐阜県で今春入学した高校1年生は約21,000人だが、平成33年度には約18,000人と3,000人ほど減少する。将来を考えて学校の特色を出していくためにもこの会議を大切にしたいと考えている。会議の時以外でも学校に来ていただいたり、学校外で気付いたことをご指摘いただければありがたい。

今年の1年生から、全日制で生活文化科が1クラス減となったため、在籍生徒数は、全日制997名、定時制43名、通信制91名、の合計1,131名となった。教職員は常勤の者だけで約130名、管理職の3分の2が新しく替わった。学校経営については、今まで進めてきた「一つの学校」、「融合の深化」をコンセプトに、3つの課程、4つの大学科、7つの小学科それぞれで取り組んでいる。学習面では、基礎基本をベースに各学科の特徴を加え、プラスアルファとして部活動、資格取得、プロジェクト研究等に力を入れ人材形成に努めている。生徒は大変頑張ってくれており、昨年度新聞記事に取り上げていただいた数が過去最多であったが、現在はそれを上回るペースで掲載していただいている。また、地域との連携も重視しており、今年度岐阜経済大学と高大連携協定を結んだ。これまでに中部学院大学とも連携しており、今後さらに地域との連携に力を入れていきたい。

今年、岐阜県で開催される国体では、冬季大会でスキー部が活躍してくれた。これからは、バスケットボール、ハンドボール、サッカー等に補助員として生徒が協力するため、10月初旬を5連休とし、国体への協力体制をとった。また本校においては、ハンドボール部が少年女子チームの主体として出場する。

来年度入試から高校入試制度が新しくなる。昨年までは、特色化選抜、一般選抜の2回の実施であったが、来春から第一次選抜のみとなる。これまで、職業科の特色化選抜では学力検査を課してこなかったが、来春からは全員に5教科の学力試験が課せられる。また、学校独自の試験も実施することができるので、検討して本校の特徴が出せるよう取り組んでいきたい。

<全日制 岡本校舎>

4月20日に台湾の高校生60名が来校し、ビジネス科の生徒中心に交流した。ハンドボール部では、3年生1名が18歳以下の日本代表に選ばれ、モンテネグロに派遣される予定である。3年前の生徒以来2人目の快挙である。6月にF_NAVI（卒業生と語る会）を実施した。卒業生に来校してもらい、職場や学校の生の話しをしてもらった。生徒には大変好評であった。

昨日、学校の施設を案内したところ「トイレが綺麗である」とほめていただいた。昼休みに掃除をしており、掃除の後だからだと説明したが、「トイレ以外の設備も上手に丁寧に使っており、学校の落ち着いた感じがうかがえる」と改めてほめていただいた。修学旅行では体験講話の講師から「聞く態度が大変良かった」とほめていただいた。

普通科では、1年生の学習合宿を始め2年生のモートレ（朝学習）、3年生の進学補習などを実施しており、昨年は8名（全体で10名）の国公立大学に合格するなど成果をあげた。本年も大変頑張っている。情報処理科では、国家試験の応用情報試験に飛騨地区初の合格者を出した。全国の高校生228名が受験し、合格者は56名であった。ビジネス科では、台湾の高校生が来校した際、名刺交換等で交流した。この後、宮川朝市販売実習（7/27～29）、名古屋松坂屋（7/28～29）での生徒が開発したアイスクリームの販売実習を予定している。生活文化科では、飛騨市の異文化体験事業に応募した生徒が、普通科生徒とともに選出され、8月にオーストラリアへ派遣される。また、飛騨高山高校としての1年目に入学した卒業生が初めて教員採用試験に合格し、母校に配属され、頑張っている。生徒たちも資格取得等に向け一生懸命取り組んでいる。

<全日制 山田校舎>

全体的に落ち着いている。先日、農業クラブの壮行会を実施したが、昨年長崎で開催された全国大会で最優秀賞を受賞した生徒は2年生であるため、今年は2連覇を狙っている。ギフチョウについては、羽化させるだけでなくギフチョウが住める環境づくりに取り組んでいる。

木曾馬に赤ちゃんが生まれ元気に育っている。全国で一頭しかいないという珍しい栗毛色の木曾馬を繁殖、飼育している。木曾馬の飼育頭数は日本一で、日本在来馬の繁殖を行っているのは、沖縄県の高校と本校の2校である。飛騨和牛生産協議会青年部の共進会より本校の飛騨牛が最優秀賞を受賞した。また、飛騨酪農組合と「ローズアイス」を共同開発し、先日実施されたウルトラマラソンで岡本校舎の「宿讎かぼちゃアイス」等と一緒に販売した。明後日7月6日（金）には恒例の朝顔市も予定している。

<定時制>

「生涯にわたって学習の機会を求める生徒のニーズに応える」、「いつでもだれでも楽しく学べる場」を役割と考え、頑張っている。以前は、働きながら学ぶ生徒がほとんどであったが、現在は小中学校で不登校を経験した生徒や、全日制を中退した生徒が多く学んでいる。「学び直し」としての授業、個に応じたきめ細かな指導をしている。「分かった」「できた」と実感できるように視覚に訴える授業を実施している。授業以外にも勉強の場を求める生徒のために、早出学習や放課後の学習の場を提供している。職員が全生徒の顔と名前を覚え、生徒が自分の将来に目を向けさせる指導を行っている。

通信制の授業を併用し、3年間で卒業を目指している生徒が3年生1名、2年生8名いる。これらの多くの生徒は専門学校への進学を希望している。職場探し、職場開拓が大変である。アルバイトをしている生徒の職場を職員が訪問している。昨年まで半数以上学校に行っていない生徒が休まず頑張っている。これからも心のケアを大切に指導していきたい。

<通信制>

多様な生徒の「学び直し」の場である。何らかの原因で高校を卒業できなかった中高年の方、昨年は72歳、今年は61歳の生徒も在籍している。日曜日のスクーリングと自宅でのレポート作成、提出、テストを経て進級卒業している。91名中、他校の中退が43名。いろいろな意味で教育の本質がここにあると思う。順調に単位修得とはいかないので、いろいろなフォローをしている。例えば個別面接指導、水曜特別スクーリング、夜間学習会等を実施している。勉強したいと思っている生徒の学習の場として提供している。乳幼児を抱える生徒がいるので、「ママの日」を実施した。普段は子どもを実家に預けているが、この日は子どもを連れての授業日として開講している。高卒資格取得の最後の砦として定時制と共に頑張っていきたい。通信制、定時制の卒業生の働き場の場を紹介していただければありがたい。

(2) 授業参観（全日制 岡本校舎の第3限の全授業）

(3) 授業参観の感想および学校へのご要望・ご意見等

意見1 多様な学科があり、授業形態も様々である中、それぞれに適した授業プログラムをたてて授業が展開されており、先生方の苦勞が感じられた。生徒玄関も整然としており、生徒が落ち着いて学校生活を送っていることがわかる。一昨年、「性教育」の授業を参観して感激したが、通信制の「ママの日」については、大変いい取り組みだと思ふ。正しい性知識を身に付けさせることは、生徒の将来にとって大切である。

先日、口にピアスをしている男子高校生を見かけた。残念である。

意見2 校内がきれいで、掃除が行き届いている。授業も皆、真面目に取り組んでいた。通信制の「ママの日」はいい取り組みだと思う。入試について、新しい制度の中で農業後継者が入学できるか心配する声が聞こえてくる。

アルバイトについては、どのようになっているか。

学校側 基本的に届出制である。事前に説明会を実施し、長期休暇中だけでなく土日のアルバイトも可能である。ただし1年生については、学校生活への適応を優先し、前期中間考査以降可能となる。

意見3 学校内がきれいである。荒れた学校は校内が汚いというが、先生方の指導と生徒の生活面での取り組みのいい面が出ていると感じた。個人的に書道を学んでいるが、続けてやるのが力になると感じている。日々の先生方の指導により、生徒がさらに上を目指せるよう導いてほしい。廊下や階段に書道の作品が展示がしてあり、自分に対しても他人に対してもいい励ましになる。私もその中の一作品が気に入り、そこに記されたことばを書き留めた。

意見4 3年目となるが、毎回、授業態度はいいと感じる。過日行われた学習成果発表会をみせていただいたが、発表する態度もよかった。私は福祉に携わっているが、福祉の現場は資格が重視される世界である。資格を取るとは今後ますます大切になってくると思われる。これからも指導を継続していただきたい。また、人と人との交流が苦手な人が増えており、2・3年で離職するケースも多い。小グループで人と人が交わる場面をつくるなど工夫していく必要を感じる。

意見5 いろいろな取り組みを行っていることがわかる。先生方は大変だと思うが、生徒の側からは選択肢が多くなるということであり、継続して取り組んでいただきたい。今一番大切なことはコミュニケーション能力だと思う。資格取得だけでなく、コミュニケーション能力をいかに付けていくかが大切である。

学校側 道具が発達したことが、却ってコミュニケーション能力の不足を招いたようにも感じる。国としても言語能力の充実などコミュニケーション能力育成の方針を示しているが、なかなか有効な手立てが見つからない。LHRや外部講師を招いての講演などを行っているが、なかなか生徒に入っていくのが現状であり、繰り返し指導の機会を設けていく。

意見6 適応障がいのある生徒も増えている。いくらコンピュータ能力が高くても、それだけではダメ。それ以上にコミュニケーション能力の育成が重要である。

学校側 携帯電話については、2年前から朝のSHRから帰りのSHRまでは使用しない指導を行っており、現在までそれに関する問題は生じていない。ただし、携帯電話そのものの学校への持ち込みを禁止しているわけではない。しかし、先日の1年普通科の学習合宿では、電波の問題や学習に専念させるため持ち込みを禁止したが、携帯電話を持たないことを不安がる生徒がいたようである。

性教育については、いろんな方にいろんな方向から話していただいている。昨年度は岡本校舎、今年度は山田校舎で実施予定である。

意見7 幸い今年には交通事故がないが、校外での本校生徒の自転車マナーはどうか。

学校側 MSリーダーズが中心となり、しっかりやってくれていると思う。継続してほしい。

6 会議のまとめ

本日参加している本校の職員はすべて男性であり、飛騨地区では女性の管理職が極めて少ない。今回の会議は我々の物差しとは異なる観点からの提言をいただくことができ、大変ありがたい。これからもお気づきの点があれば、いろいろと情報をいただきたい。

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 坂上 修

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320

(山田校舎) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成24年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第2回)

2 会議の構成

委員	岩佐 澄男	元飛騨農業協同組合組合長
	川尻富士子	岐阜県指導農業士
	白野登美子	高山商店街振興組合女性部
	西永 由典	高山市社会福祉協議会会長
		飛騨高山高等学校同窓会理事
	米澤 久二	公認会計士

(委員名は五十音順)

育友会	西島 芳彦	全日制育友会長
	川崎 誠	定時制育友会副会長
学校側	坂上 修	校長
	丹羽 俊文	副校長 (全日制山田校舎)
	大澤 正孝	副校長 (定時制・通信制)
	森 勝彦	事務主幹
	板屋 光彦	教頭 (全日制岡本校舎)
	中垣内隆夫	教頭 (全日制岡本校舎)
	渡辺 昌文	教頭 (全日制山田校舎)
	岡本 昌昭	教頭 (定時制)
	細江 雅紀	教頭 (通信制)
	川上 齊	教諭 (全日制山田校舎・進路指導主事、記録)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成25年1月25日(金) 14:50~15:50
高山市民文化会館2-1室
「平成24年度学習成果発表会」に引き続き開催
学校評議員4名、全日制育友会長、定時制育友会副会長及び学校側10名が出席

5 会議の概要 (進行 渡辺教頭)

- ・開会のことば (丹羽副校長)
- ・学校長挨拶 (坂上校長)
- ・今年度の学校状況の説明 (各教頭)
- ・学校への意見・要望等
- ・閉会のことば (大澤副校長)

(1) 学校長挨拶

第1回の学校評議員会でも申し上げたように、統合以来「一つの学校」を目指して学校づくりを行ってきたが、今日の学習成果発表会がその象徴と言える。特に園芸科学科と生活文化科とのコラボレーションが示すように、生徒・職員の思いも一つになって発信でき、大変うれしい現状である。

今年も「生徒が自慢の学校」を示すように、いろいろな場面で生徒は活躍をしてくれた。環境科学科ではその活動が認められ、「ぎふ清流環境大賞」を受賞した。生物生産科では、「農業高校生お米甲子園」で本校のコシヒカリが最高賞の「金賞」を受賞した。農業クラブ全国大会でも、最優秀こそ逃したがたくさんの生徒が優秀賞をいただき、その名を広めた。商業科では難しい応用情報処理の資格を取得し、通信制では生活体験発表大会で県で第2位となり東海大会出場を勝ち取った。部活動においても、ハンドボール部はインターハイで念願のベスト8の壁を破り3位と輝かしい成績を収め、スキー部も県大会3年連続男女総合優勝、陸上部女子も駅伝競技で県大会5位となり、将来都大路を走る目標に一步步近づいている。

今回は学校関係者評価委員会も兼ねており、全日制育友会長、定時制育友会副会長にも出席をいただいている。中から見ている私達とは違った目で、忌憚のないご意見をお願いしたい。

(2) 今年度の学校状況の説明

各課程の教頭より「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果を踏まえながら、学校の状況について説明を行った。

(3) 学校関係者評価、学校への意見・要望

意見1 学習成果発表会のファッションショーで最後に涙を見せた生徒さんがいたが、それだけの努力や苦労があったとみえ、私も感動をいただいた。これだけの感動をもっとたくさんの方に共有していただければ、もっとこの学校の良さが伝わるのではないかと思う。

意見2 年々学習成果発表会が立派になっており、大変有意義に過ごさせていただいた。世論ではいじめと体罰で持ちきりだが、本校にないことはありがたい。服装の乱れもなくなってきており、指導に感謝している。今後とも、生徒たちの進学・就職にお力添えをお願いしたい。

意見3 生徒の聞く姿、大変落ち着きがあり、安心した。
農家宿泊研修を担当させていただいているが、生徒は農業が楽しいと言っている。

退学する生徒もいるようだが、せっかく入ったのに残念だと思う。理由はどんなことがあるのか。

学校側 中学生の本校への志望状況は現在各科1.2～1.4倍の倍率となっている。しか

し、入試直前になるとほぼ1倍となる。すなわち、受かるところを受検することに重きをおくようになることで、本来の希望ではない科に入学してくる生徒がいる。また、中学校と高等学校との違いを理解できないまま入学し、入ってからそのペースが作れずという理由などで進路変更する場合がある。

意見4 生徒が堂々と発表する姿が大変素晴らしく、すごい学校に自分の子供が通っているんだなと改めて思った。

野球部の生徒の朝清掃する姿やその挨拶に、ほかの生徒も引っ張られていくとよいのではと思う。

意見5 入学前に挫折をしてきた生徒が、毎日楽しく通学していることに改めて感謝している。昼間働きながら学んでいることや、仲間に悩みを相談したり、相談されたりする姿をみると、中学時代より「人間力」がついてきたと思われる。今後も学力だけでなく「人間力」を必要とする社会であるので、先を考えるとこの「人間力」こそ、今付けていく必要がある。

意見6 交換留学生の受け入れに際しては、受け入れに積極的な理解をいただき感謝している。

学校側 留学生の存在が触媒となって、生徒たちが刺激を受け、学校全体がさらに活性化していくことを期待している。

6 会議のまとめ及び閉会

本日はお褒めの言葉をたくさんいただいたが、改善点等あれば今後ともご意見をいただきたい。生徒の頑張りを、今後とも見守りいただきたい。